

令和6年度 学校評価結果報告書

上田市立 神川小学校

1 学校教育目標

考える子 心の美しい子 たくましい子

2 めざす子どもの姿・中期的な目標（具体的目標）等

- 1 一人で、みんなで考えられる子
- 2 自他の良さを感じられる子
- 3 一人で、みんなで心と身体をきたえる子

3 昨年度（令和5年度）の学校評価の成果と課題

- ・新型コロナウイルス感染症が5類となり、活動制限が緩和された。そのため、外に出かけたり、調べに行ったりする活動が再開できるようになってきた。9割を超える児童が「学校に来ることが楽しいですか」という問いに対して、肯定的な回答をしている。「神川のことを学ぶ学習は楽しいですか」の問いにも7割を超える児童が「はい」と回答をしている。反面、保護者には伝わっていない部分が見られ、子どもが家で話したくなるような活動にまでは至っていないことがわかった。情報発信を含め、家庭でも話題に挙がる活動にしていきたい。
- ・保護者へのアンケートと児童アンケートの実施、回収、分析を年1回であったものを、年2回に増やした。7月の回答を見て、何かしら手立てを打つように心がけ、PDC Aサイクルとして職員間でも共有していった。来年度以降も継続していきたい。

4 今年度の重点目標と目標達成のための具体的取組

重点目標	具体的取組
学ぶ楽しさが味わえる授業	<ul style="list-style-type: none"> ○「神川スタンダード」「学びのユニバーサルデザイン」全学級で大切に学習の基本と学習環境作り ○「多様な学習形態」ペア・グループ・複数教員・教科担任制による児童指導 ○「特別支援学級」「かながわ教室」「日本語教室」「ことばの教室」個に合った学びの場の提供
みんなとつながる活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「あいさつ」「なかよし学年」を中核に据えた児童会活動の実施 ○「なかよし週間・月間」重点的になかよし・自他の良さについて考え深める ○「神川っ子」や月に一度、学年の枠を超えた「スーパー神川っ子」で交流を深める
心と身体を育む体験・交流	<ul style="list-style-type: none"> ○「身体みがき体操」「運動の場づくり」年間を通して多様な動きの習得、「RainboWWalking」を利用した歩行の分析と改善 ○「国分寺史跡公園全校清掃」「上田養護との交流」等、地域とつながる奉仕・交流活動 ○教科の枠を超え、学年のつながりを大切にした「メディア教育」「安全教育」「性教育」の推進

5 評価の方法

- 1 自己評価（児童，保護者アンケート等）
児童・保護者・学校職員に年2回アンケートをとって集計し，結果について全職員で考察した。
- 2 学校関係者評価（組織等）
運営委員会の皆さんにその都度，報告をして，ご意見をいただいた。第2回学校運営委員会では，全職員も参加し，グループ討議を行った。

6 自己評価（児童，保護者アンケート等含）の結果と分析

○「授業では自分の考えを持ち，協力して発表したりまとめたりしていますか。」
児童は8割以上，保護者からは9割近く肯定的な回答を得られた。ペアやグループで協力をして調べたり，発表したりする学習を意識して多く取り入れてきた成果を感じる。その一方で，強く感じている「はい」の回答が，特に保護者は3割程度と
思ったよりも少なかった。通常の一斉授業の中でも，一問一答式ではなく，出された意見についてさらに意見を交わすような授業を大切にし，参観日の授業などで保護者にも伝わるようにしていく。

○「自分からあいさつができていますか」の設問に対して

7月，12月とも「できている」「だいたいできている」と回答した児童は9割近くいて，ほぼ変わらなかった。しかし，保護者から見た「できている」という評価が低い。そのため，登下校での友だちや地域の方々に向けたあいさつだけでなく，来客のある時など意識してあいさつができるように声がけ，振り返りをしていき，家庭内の日常のあいさつの奨励をしていく必要を感じた。

○メディアコントロール週間をきっかけとした自己管理能力の育成

以前は，高校入学したら所持する携帯電話やスマホが，いつからか中学校入学時のアイテムになり，そして今は，進級時に手にする児童も増えていて，所持率は年々増加している。児童の5割以上が約束・ルールを守れていると回答しているが，保護者の回答は3割以下となっている。メディアコントロール週間での取り組みを学校でも，家庭でも振り返る時間をとり，自己管理しようとする意識を啓発し，成長段階に応じたメディアリテラシーの授業も行っていく。

7 学校関係者評価の結果と分析

概ね良いコメントをいただきました。学校運営委員会では毎回授業参観を設定し，2回目は先生方との懇談会，3回目は休み時間の参観を設定した工夫も多方面から見ただけの要因になったと思います。新たな試みでしたが，学校運営委員のみなさんからも新たな試みについて好評でした。

クラブ活動の講師を地域の方に依頼したり，休み時間の遊びボランティアが機能しはじめたり，学校に係わっていただける方をさらに増やせる可能性を感じています。

「仲間と友達を認め合っている姿が見えられています。自分だけでなく，他人も認める姿勢が良いと思います。」「コロナ下では，休み時間の遊ぶ場所の制限，子供たちが体を動かす機会の減少と課題が散見されました。コロナが5類となった今，元気に外で遊ぶ習慣をより多くの子供に広めてほしいと思います。」「教育目標に適しており，それぞれのクラス学年全校で工夫されていることを感じています。さらに良い事は共有化して具体的な展開を望みます。」などたくさんの意見をいただいているので，全職員と共有し，より改善していきたい。

8 自己評価・学校関係者評価の公表

- ・ホームページへの掲載，家庭通知により，地域や家庭に結果を公表した。

9 設置者（上田市・上田市教育委員会）への要望等

多くの地域の方にボランティアや学習支援に入っていただいた。ボランティア保険に市で加入していただけるシステムありがたい。

学校評価に直接は関係ないが，来客時の駐車場があまりにも少ないため，雨天時に駐車する場所がない。さらに，神川橋が完成すると体育館南の駐車場がさらに狭くなることが予想される。どこかに駐車場を確保してほしい。

10 まとめと次年度に向けて

- ・教科担任制を3年生以上で実施でき，多くの教科，単元で実施できた。さらに拡大していきたい。
- ・座席の工夫等も行い，協働的な学びや探究的な学びにつながりやすい話し合い活動を充実させることができた。
- ・ふるさと学習は，山本鼎先生の学習，大豆栽培から味噌づくり，綿の学習，命の学習，しめ縄づくり，神川橋工事見学など再開あるいは新たな取り組みの学習を地域の方を招いて学習することができた。身体作りにも上田整形外科より講師を招いて全校で取り組めた。これらのことを来年度も継続。保護者・地域への情報発信も増やしていきたい。